

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
<p>Gender-specific relationships between alcohol drinking patterns and metabolic syndrome: the Korea National Health and Nutrition Examination Survey 2008.</p> <p>飲酒パターンとメタボリックシンドロームにおける性特異的な関連 : Korea National Health and Nutrition Examination Survey 2008</p>		
執筆者		
Lee K.		
掲載誌		
Public Health Nutr. 2012 Oct;15(10):1917-24.		
キーワード		
飲酒パターン、メタボリックシンドローム、性特異的		
要 旨		
<p>目的： 韓国における飲酒パターン（平均的な飲酒回数、典型的な飲酒量、一過性の多量飲酒の回数）とメタボリックシンドローム（MetS）及びそのコンポーネントの保有率との性特異的な関連を調査することである。</p> <p>方法： 2008年に実施された Korea National Health and Nutrition Examination Survey IV(韓国・国立栄養調査IV)を使用し、複雑抽出デザイン解析を用いた横断研究で実施された。分析は複雑なサンプリングデザインを用いた。対象者のうち現在の飲酒者は、男性 1,963 人、女性 1,830 人の合計 3,793 人であった。</p> <p>結果： 交絡要因（年齢、教育歴、年収、身体活動、喫煙、エネルギー摂取、飲酒量の分析のための飲酒回数）を調整した飲酒量と一過性の多量飲酒の回数とメタボリックシンドロームの有病率の関連は、男女で異なっていた。標準的な 1 回の飲酒機会において、男性 7 単位以上、女性 3 単位以上の飲酒と、1 週間に 1 回以上の一過性の多量飲酒がある男女はともに、習慣性の 1~2 単位の飲酒があり一過性の多量飲酒のない男女と比較してメタボリックシンドロームの有病率が有意に高かった。飲酒量とメタボリックシンドロームのクライテリアとの関連は、高血圧と腹部肥満は男性においてより強い関連があった。女性においては、高血糖がより強い関連があった。一過性の多量飲酒は男性においては、回数依存的に高中性脂肪血症、高血糖、高血圧、腹部肥満がみられた。女性においては、回数依存的に高血糖、高血圧がみられた。興味深いことに平均的な飲酒回数は、男女ともにメタボリックシンドロームとの有意な関連を認めなかった。</p> <p>結論： 飲酒量が多いほど、また、一過性の多量飲酒の機会が多いほどメタボリックシンドロームの有病率がより高いということが示された。そして関連の強さは、男女で異なっていると考えられた。</p>		